電子伝達鎖と ATP 合成酵素

複合体 I ~Ⅳ、ユビキノン、チトクローム C

https://l-hospitalier.github.io

2020.4

【mtDNA】27 億年前、シアノバクテリアが出現、10 億年 間大量の酸素を大気中に放出した。 これでミトコンドリ アを使う効率の良い好気性代謝が可能となり5億年前カン ブリア大爆発と呼ばれる生命体の革命的な進化が起きた (「#215 バージェス動物群」参照)。 ミトコンドリアは リケッチアに似た細菌の内部共生者(endosymbiont)で独 Raven 5"Biology" よ

内膜と外膜の間に かき出されたプロトンH+

シトクロム酸化酵素複合体

自の環状 16kB (塩基) の mtDNA*1 を持ち、哺乳類では母の卵細胞からのみ細胞質遺伝 (cytoplasmic inheritance) により遺伝形質を受け継ぐ。 mtDNA は DNA 損傷修復を受 けないため変異が年齢とともに蓄積され、老化の重要な原因と目されている。

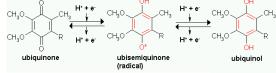
達系で重要なのは【電子伝達 鎖(呼吸鎖)】と ATP 合成酵 素。電子伝達鎖は右図のよ うに複合体 I (NADH- CoQ レダクターゼ)、**複合体Ⅲ**(シ トクロム c レダクターゼ)、 複合体Ⅳ(シトクロムcオキ シダーゼ)と**複合体Ⅱ**(コハ ク酸-CoQ レダクターゼ)か らなる。 初めに複合体 I が

渡す。 環元型をユビキノー

膜間腔 シトクロムc NADH脱水素酵素複合体 ユビキノン シトクロムc還元酵素 + 1/2 🔾 コハク酸脱水素酵素 ATP合成酵素 マトリックス ルと呼び、さらに電子を**複合**

NADHから電子を受け取りユ #236 ビキノン(Coenzyme Q) に

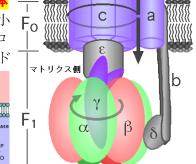
> 体Ⅲに渡し、次いで電子をシトクロムcに渡す。 最後 にシトクロム c から複合体IVに電子が渡され、酸素と 反応して水が生成、電子伝達が終了。 この間、電子の 通過で**複合体Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ**は H⁺を膜間腔へ汲み出す。 **複**



合体Ⅱ(コハク酸脱水素酵素)はコハク酸を酸化してフマル酸としFADH2からキノン に電子を渡す。 NADH の複合体 I に相当し、H+汲み出しがないので FADH2の H+移動 は NADH の 3/4。 【ATP 合成酵素】電子伝達鎖が作った H+濃度勾配の解消は ATP 合成 と共役している。 濃度勾配を解消しようと、H⁺は ATP 合成酵素 (F1・F0 - ATPase、 右下図)の分子内を通ってマトリックスに流入。 逆にこの酵素は ATP を加水分解する ことで H*勾配も作れる。 酵素は回転子と、固定子に分かれ、H*はまず膜間腔側から ATP 合成酵素の a サブユニット内に入って c サブユニットに結合し、最終的に a サブ ユニットからマトリックス流入。 H^{\dagger} が C サブユニットに結合すると $C \cdot \epsilon \cdot \gamma$ サブユ

ニットが回転。 γ サブユニットが回転すると $\alpha 3 \beta 3$ サブユニットの立 体構造が変化し、それに伴って ADP から ATP が合成される。【葉緑体 -器官。 色素体(プラスチド、白、紅色、シアンなど)の一種。

フィル(葉緑体、左図)を持ち独自 DNA、細胞質遺伝などがミトコンド リアと相同。 **カルビン*4・ベンソン** 回路で色素体が吸収した光エネルギ ーで CO₂を固定して酸素を放出、 NADH や ATP 合成の起点となる。



H⁺

^{*1} 原因は不明だが mtDNA の暗号は全ての原核生物と真核生物で用いられている標準的なものとは異なる。^{*2}「呼吸」は 生物学では息を吸ったり吐いたりではなく「基質を代謝してエネルギーを得ること」。 っ 生物が毒性の高い酸素を呼 吸して有機物を酸化する能率の良い好気性代謝を手に入れた原因とおもわれる? *4 M カルビンは 1961 年ノーベル賞